



# Sun Fire™ V890 サーバー ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 817-6676-16  
2007 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, SunSolve Online, SunVTS, OpenBoot, Sun StorEdge, Jump Start は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V890 Server Product Notes
	Part No: 817-3996-17
	Revision A



# Sun Fire V890 サーバーご使用にあたって

---

このマニュアルでは、Sun Fire™ V890 サーバーに関連する問題の最新情報について説明します。

---

## 関連マニュアル

Sun Fire V890 サーバーに関するすべてのオンラインマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers>

これらのサイトを定期的にチェックして、このマニュアルの最新版を含む、Sun Fire V890 製品のマニュアルの最新版を確認してください。

---

## プリインストールソフトウェア

Sun Fire V890 サーバーには、Solaris™ オペレーティングシステム (OS) および Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。プリインストールされたソフトウェアの使用方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

---

## 2100 MHz のシステム要件

2100 MHz の CPU/メモリーモジュールを搭載した Sun Fire V890 システムは、2100 MHz UltraSPARC™ IV+ プロセッサの追加の電源をサポートするようにアップグレードされた状態で出荷されます。2100 MHz システムのソフトウェア要件およびハードウェアアップグレードの詳細は、『Sun Fire V490/V890 Systems with UltraSPARC IV+ 2100 MHz CPU/Memory Modules Supplement』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトからオンラインで参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers>

---

## ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアの要件

表 1 に、1050 MHz、1200 MHz、および 1350 MHz の UltraSPARC IV CPU/メモリーモジュールと 1500 MHz、1800 MHz、および 2100 MHz の UltraSPARC IV+ CPU/メモリーモジュールに必要な OS および OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアの最小バージョンを示します。

表 1 オペレーティングシステムおよびファームウェアの最小バージョン

CPU/メモリーモジュール	オペレーティングシステム	ファームウェアバージョン
1050 MHz	Solaris 8 2/04	OBP 4.15.1
	Solaris 9 4/04	OBP 4.15.1
	Solaris 10 3/05	OBP 4.15.1
1200 MHz	Solaris 8 2/04	OBP 4.15.1
	Solaris 9 4/04	OBP 4.15.1
	Solaris 10 3/05	OBP 4.15.1
1350 MHz	Solaris 8 2/04	OBP 4.15.6
	Solaris 9 4/04	OBP 4.15.6
	Solaris 10 3/05	OBP 4.15.6
1500 MHz	Solaris 9 9/05	OBP 4.18.1
	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.18.1
1800 MHz	Solaris 9 9/05	OBP 4.18.8

---

表 1 オペレーティングシステムおよびファームウェアの最小バージョン (続き)

CPU/メモリーモジュール	オペレーティングシステム	ファームウェアバージョン
2100 MHz	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.18.8
	Solaris 9 9/05	OBP 4.22.24
	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.22.24

**注意** – 2100 MHz の CPU/メモリーモジュールを搭載したシステムでは、**version 4.22.24** 以降の OBP を使用してください。これらのシステムに以前のバージョンの OBP をロードすると、システムが起動不能になります。

サーバーに適切なバージョンのオペレーティングシステムがインストールされていることを確認するには、`/etc/release` ファイルを調べてください。このファイルに「Solaris X X/XX」という文字列か、**Sun Fire V890** システムと互換性のある Solaris リリースを示す文字列が含まれていることを確認します。

サーバーに現在インストールされている OpenBoot ファームウェアのバージョンを特定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- Solaris オペレーティングシステムの動作中に、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/prtconf -v
```

- または、`ok` プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
ok .version
```

## OpenBoot PROM の診断操作の拡張

**version 4.15** 以降の OBP では、拡張診断機能が提供されており、電源投入時にデフォルトで有効になります。これらの診断機能により、**Sun Fire V890** サーバーの起動にかかる時間が長くなることがあります。また、これらの診断機能は、サーバーに関する情報を検出して報告するいくつかのアプリケーションの動作を変更します。

たとえば、OBP 診断が有効の場合、`rsc-console` 接続からの出力は、警告メッセージもなくサーバーコンソールに送信されます。このとき、RSC コンソールは RSC コマンドに応答していないように見えます。**Sun Fire V890** サーバーのフロントパネルのキースイッチが診断位置に設定されている状態で、`rsc-console` 出力を表示している場合にも、このように動作することがあります。

また、診断は起動時のサーバーの LED の動作も変更します。電源投入時自己診断 (POST) の実行中は、電源 LED とシステム障害 LED が同時に点滅します。POST が完了して OBP 診断が実行されると、LED は通常の動作に戻ります。

これらの拡張機能、新規および再定義された構成変数、および新しい標準 (デフォルト) 構成の詳細は、『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation』を参照してください。このマニュアルは、Sun Fire V890 サーバーに付属の Sun Fire V890 Documentation CD に収録されています。

---

## ソフトウェアパッチ

この節では、使用している Sun Fire V890 サーバーで必要になる場合があるソフトウェアパッチの一覧を示します。これらのパッチは、ご購入先から入手するか、次の SunSolve Online<sup>SM</sup> Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

パッチのインストール手順については、各パッチに添付の README ファイルを参照してください。次のバージョンの Solaris OS のパッチを、このあとに一覧で示します。

- Solaris 10 OS のソフトウェアパッチ
- Solaris 9 OS のソフトウェアパッチ
- Solaris 8 OS のソフトウェアパッチ

### Solaris 10 OS のソフトウェアパッチ

Solaris 10 に必要なソフトウェアパッチの一覧を確認するには、『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

### Solaris 9 OS のソフトウェアパッチ

表 2 に、Sun Fire V890 サーバーにインストールされている Solaris 9 4/04 OS の必須パッチおよび推奨パッチの一覧を示します。

表 2 Solaris 9 OS がインストールされた Sun Fire V890 サーバーのパッチ

パッチ ID	説明
必須パッチ:	
112233-12 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
112817-17 以降	SunOS 5.9: SunGigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ

表 2 Solaris 9 OS がインストールされた Sun Fire V890 サーバーのパッチ (続き)

パッチ ID	説明
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ (MPxIO/leadville)*
113039-04 以降	SunOS 5.9: Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
113040-06 以降	SunOS 5.9: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*
113041-04 以降	SunOS 5.9: fcip ドライバパッチ*
113042-04 以降	SunOS 5.9: qlc ドライバパッチ*
113043-05 以降	SunOS 5.9: luxadm、liba5k、および libg_fc パッチ*
113044-04 以降	cfgadm パッチ*
113447-13 以降	SunOS 5.9: libprtdiag_psr パッチ
117171-05 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
115553-10 以降	SunOS 5.9: USB ドライバおよびフレームワークパッチ
推奨パッチ:	
116363-07 以降	RSC 2.2.2 パッチ

\* パッチ 111847、113039、113040、113041、113042、113043、および 113044 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

## Solaris 8 OS のソフトウェアパッチ

表 3 に、Solaris 8 02/04 OS がインストールされている Sun Fire V890 サーバーに固有の必須パッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

表 3 Solaris 8 OS がインストールされた Sun Fire V890 の必須パッチ

パッチ ID	説明
必須パッチ:	
109873-25 以降	SunOS 5.8: prtdiag およびプラットフォーム libprtdiag_psr.so.1 パッチ
109896-25 以降	USB ドライバパッチ
110460-32 以降	SunOS 5.8: fruid/PICL プラグインパッチ
110614-02 以降	SunOS 2.8: ses ドライバパッチ

表 3 Solaris 8 OS がインストールされた Sun Fire V890 の必須パッチ (続き)

パッチ ID	説明
111095-15 以降	SunOS 2.8: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*
111096-08 以降	SunOS 2.8: fcip ドライバパッチ*
111097-14 以降	SunOS 2.8: qlc ドライバパッチ*
111412-13 以降	SunOS 2.8: Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
111413-12 以降	SunOS 2.8: luxadm、liba5k、および libg_fc パッチ*
111792-09 以降	picl プラグインパッチ
111846-08 以降	SunOS 2.8: cfgadm パッチ*
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ*
111883-24 以降	SunOS 5.8: GigaSwiftEthernet ドライバパッチ
116962-01 以降	pcisch ドライバパッチ
推奨パッチ:	
117255-01 以降	RSC 2.2.2 パッチ

\* パッチ 111095、111096、111097、111412、111413、および 111846 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

---

# ハードウェアおよびファームウェアの問題

この節では、Sun Fire V890 サーバーに関連するハードウェアおよびファームウェアの問題について説明します。

## PCI ホットプラグをサポートする Sun の PCI カード

動作中のオペレーティングシステムから PCI カードを正常に切り離すには、カード上の各デバイスが切り離し安全ドライバを搭載している必要があります。「切り離し安全」ドライバを使用すると、サーバーのほかの場所で使用されている同種のデバイスを処理するためのインスタンスをオープンしたままで、ドライバの 1 つのインスタンスをクローズできます。切り離し安全ドライバであるためには、DDI\_DETACH と呼ばれる基本的な DDI/DKI (Device Driver Interface/Device Kernel Interface) 機能を実行できる必要があります。DDI\_DETACH 機能をサポートしないドライバは、「切り離し危険」とみなされます。

Sun では、切り離し安全デバイスドライバを使用するホットプラグ対応の PCI カードを各種提供しています。入手できる PCI カードについては、ご購入先にお問い合わせください。

Sun 以外のドライバ (Sun 以外のベンダーから購入したもの) の多くは、DDI\_DETACH 機能をサポートしていません。本番環境で使用する前に、Sun 以外の PCI カードの機能性とホットプラグの互換性を、そのカードのベンダーに確認してください。

---

**注** – PCI ホットプラグ操作が完了するまで待ってから、新しい操作を開始してください。

---

Sun Fire V890 PCI カードのホットプラグ操作の詳細は、『Sun Fire V890 Server Dynamic Reconfiguration Guide』(817-4166-10) を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

- <http://docs.sun.com>

## Sun が認定していない PCI カードを Sun Fire V890 サーバーで使用する際の注意事項

サーバーの動作を確実に維持するには、Sun Fire V890 サーバーに取り付けるすべての PCI カードおよび関連するドライバを、Sun がこのプラットフォーム上での使用を認定したものにすることが特に重要です。カードとドライバのソリューションが認定されたものでない場合、特定のバス上でカードとドライバ間に相互作用が発生し、潜在的なサーバーのパニックやその他の否定的な結果につながる可能性があります。

認定済みの PCI カードおよび Sun Fire V890 サーバーでの構成に関する最新情報については、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/io>

## FC-AL ディスクドライブファームウェアの問題

Sun Fire V890 サーバーに取り付けられたすべての FC-AL ディスクドライブは、Sun Fire V890 サーバーのファームウェアバージョンの最小要件を満たしている必要があります。不適切なファームウェアによって、診断が困難なさまざまなサーバーの問題が発生することがあります。ディスクドライブのファームウェアバージョンを確認するには、Solaris format(1M) ユーティリティの inquiry 機能を使用します。次の表に、このマニュアルの発行時点での Sun Fire V890 ディスクドライブのファームウェアバージョンの最小要件を示します。

### ファームウェアバージョンの最小要件

Sun の パーツ番号	容量	メーカー	ファームウェアバージョンの最小要件
540-4905	72G バイト	Seagate ST373307FC	0638
540-5408		Seagate ST373405FC	0638
		Fujitsu MAN3735FC	1004
		Fujitsu MAP3735FC	0701

注 – Sun Fire V890 サーバーでは、72G バイト未満の容量のドライブはサポートされていません。

注 – 出荷時構成、ユーザー取り付けオプション、または現場交換可能ユニット (FRU) として取り付けられた Sun Fire V890 ディスクドライブは、すべてファームウェアバージョンの最小要件を満たしています。

# Sun Fire V890 FC-AL バックプレーンファームウェアのインストール

まれに、Sun Fire V890 FC-AL バックプレーンのファームウェアが破壊された場合は、バックアップイメージを使用して、元のファームウェアでバックプレーンをフラッシュ更新できます。フラッシュ更新では、Solaris luxadm ユーティリティを使用します。詳細は次のとおりです。

バックプレーンファームウェアをフラッシュ更新する前に、SunSolve Online Web サイトから Sun Fire V890 システムディスクにファームウェアイメージをダウンロードする必要があります。バックプレーンファームウェアの最新バージョンは、SunSolve Online Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) からいつでも入手できます。SunSolve Web サイトからファームウェアをインストールするには、ファームウェアイメージに添付の README ファイルを参照してください。

---

**注** – Solaris サプリメント CD には、Sun Fire V880 サーバー用の FC-AL バックプレーンのバージョンが収録されています。Sun Fire V890 には、このバージョンのファームウェアをインストールしないでください。

---

ファームウェアイメージは、Sun Fire V890 システムディスクの次のデフォルトの位置にインストールされます。

```
/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-V890/lib/images/int_fcbpl_fw
```

イメージがこの場所にインストールされたら、次の手順に従って、フラッシュ更新を実行します。

## ▼ バックプレーンファームウェアをフラッシュ更新する方法

1. スーパーユーザーで次のコマンドを入力して、シングルユーザーモードに入ります。

```
# init s
```

2. フロントパネルのキースイッチをロック位置に入れます。

キースイッチをロック位置に設定すると、権限のないユーザーによってサーバーのフラッシュ PROM がプログラミングされることを防止できます。

---

**注** – 手順 3 のフラッシュ更新処理を開始して、スーパーユーザーのプロンプトが表示されたあとは、15 分以上待機して更新処理を完了させる必要があります。フラッシュ PROM の更新中でも、サーバーが何の動作も行っていないように見える場合があります。更新処理が完了したことを確認するまで、ほかの操作を行わないでください。

---

3. 次の `luxadm` サブコマンドを入力して、フラッシュ更新処理を開始します。

```
# luxadm download -f firmware_path enclosure_name
```

ここで指定する値は、次のとおりです。

- `firmware_path` は、システムディスク上のファームウェアの位置です。ここでは、`/usr/platform/SUNW,Sun-Fire-V890/lib/images/int_fcbpl_fw` になります。
- `enclosure_name` は、Sun Fire V890 内部記憶装置アレイに割り当てられた格納装置の名前で、デフォルトでは `FCloop` です。最初に格納装置名を確認する必要があります。場合は、`luxadm probe` サブコマンドを使用します。

---

注 - `luxadm` ユーティリティの詳細は、サプリメント CD の Solaris on Sun Hardware Collection に含まれる『特記事項: `luxadm` ソフトウェア』を参照してください。

---

4. スーパーユーザーのプロンプトがふたたび表示されたら、15 分以上待ってから、次の手順に進みます。

この最低限の待機時間は、フラッシュ更新処理が、サーバー内のすべての SSC-100 コントローラにファームウェアコードを伝達するために必要です。

5. 次の `luxadm` サブコマンドを入力して、フラッシュ更新処理が正常に完了したことを確認します。

```
# luxadm display enclosure_name
```

`enclosure_name` は、Sun Fire V890 内部記憶装置アレイに割り当てられた格納装置の名前です。

コマンド出力には、サーバーの各 SSC-100 コントローラの状態が表示されます。次に、デュアルバックプレーンサーバーの出力例の一部を示します。

```
SSC100's - 0=Base Bkpln, 1=Base LoopB, 2=Exp Bkpln, 3=Exp LoopB
SSC100 #0:   O.K.(9228/ 3A20)
SSC100 #1:   O.K.(9228/ 3A20)
SSC100 #2:   O.K.(9228/ 3A20)
SSC100 #3:   O.K.(9228/ 3A20)
```

a. 各 SSC-100 コントローラに「O.K.」が表示され、括弧内のファームウェアバージョンが同じであることを確認します。

確認された場合は、フラッシュ更新処理が正常に完了しています。

- b. そうでない場合は、約 2 分待ってから、この手順を繰り返してください。
6. フラッシュ更新処理が完了したら、init コマンドを使用してサーバーをマルチユーザーモードに戻します。
- たとえば、次のように入力します。

```
# init 3
```

7. フロントパネルのキースイッチをロック位置に入れます。
- 通常の運用時には、ロック位置に設定しておくことをお勧めします。
- これで、サーバーは通常の操作を再開できます。

## ハードウェアのウォッチドッグ機能および XIR

システムのハングアップ状態を検出し、それに対応するため、Sun Fire V890 システムは、ハードウェアのウォッチドッグ機能を備えています。これは、オペレーティングシステムの実行中、継続的にリセットされるハードウェアタイマーです。システムがハングアップすると、オペレーティングシステムはタイマーをリセットできなくなります。そのためタイマーが切れて、オペレータが介入する必要なく、自動的に外部強制リセット (XIR) が発生します。ウォッチドッグ機能が XIR を実行すると、デバッグ情報がシステムコンソールにダンプされます。

---

**注** – 次に示すとおり、ハードウェアのウォッチドッグ機能は使用可能に設定しないと起動されません。

---

XIR 機能は、RSC コンソールから手動で起動することもできます。システムが完全にハングアップし、L1-A (Stop-A) キーボードコマンドも機能しない場合には、xir コマンドを手動で実行します。RSC から xir コマンドを手動で実行すると、システムはただちに OBP の ok プロンプトに戻ります。ok プロンプトでは、OBP コマンドを使用してシステムをデバッグできます。

ハードウェアウォッチドッグ機能がリセットされたときに POST または OBP 診断を実行するように、OpenBoot 構成変数 post-trigger および obdiag trigger を設定できます。ハードウェアウォッチドッグ機能と OBP 構成変数の使用方法については、『Sun Fire V890 Diagnostics and Troubleshooting Guide』を参照してください。このマニュアルは、<http://docs.sun.com> の「Sun ハードウェア対応 Solaris」から入手できます。

## ▼ ウォッチドッグ機能およびオプションの使用可能への切り替え方法

1. `/etc/system` ファイルを編集して、次のエントリを設定します。

```
set watchdog_enable = 1
```

2. システムを再起動して、変更を有効にします。

システムがハングアップしたときに、ハードウェアウォッチドッグ機能が自動的にシステムを再起動するように設定するには、次のコマンドを実行します。

- a. システムの `ok` プロンプトで、次のように入力します。

```
ok setenv error-reset-recovery = boot
```

システムがハングアップしたときに、自動的にクラッシュダンプを生成するには、次のコマンドを実行します。

- b. システムの `ok` プロンプトで、次のように入力します。

```
ok setenv error-reset-recovery = sync
```

## Sun Fire V890 サーバーのラック搭載に関する最新情報

現在、Sun Fire V890 サーバーでサポートされる Sun のラックは、StorEdge™ 拡張キャビネット (Sun のパーツ番号 SG-XARY030A)、Sun Fire キャビネット (Sun のパーツ番号 SF-XCAB)、および Sun Rack 900 (Sun のパーツ番号 SR9-KL038A-IP) だけです。

Sun Fire V890 サーバーを Sun™ Rack 900 に搭載するには、Sun の X9638A ラックマウントキットを使用します。

Sun Fire V890 サーバーを Sun StorEdge 拡張キャビネットおよび Sun Fire キャビネットに搭載するには、Sun の X9628A ラックマウントキットを使用します。

Sun StorEdge 拡張キャビネットには、オプションのドア (Sun のパーツ番号 X9818A) を取り付けることができます。このラックに 2 台の Sun Fire V890 サーバーを搭載する場合は、EMI 保護のためにこのドアが必要となります。

---

注 – Sun Fire 拡張キャビネットには、Sun Fire V890 サーバーを 1 台だけ搭載できません。

---

## Sun Fire V890 サーバーのラック搭載に関する安全のための注意事項



---

**注意** – 『Sun Fire V890 サーバーラックマウントの手引き』で説明しているように、サーバーを持ち上げる場合は、まず、CPU/メモリーボード、電源装置、CPU ファントレイ、I/O ファントレイをすべて取り外します。これらの部品を取り外してから、4 人でサーバーを持ち上げてください。

---

ラックマウントキットに含まれている 4 つの運搬用ハンドルは、すべての部品が取り付けられたサーバーの重量には耐えられません。

---

## ソフトウェアの問題

この節では、Sun Fire V890 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。

### Sun Management Center ソフトウェアのサポート

Sun Fire V890 をサポートするには、Sun Management Center の Version 3.5 Update 1 以降が必要です。Solaris 10 OS が動作している場合は、Sun Management Center のパッチ 118389-07 に加えて、Version 3.5 Update 1b をインストールする必要があります。特にシステムに新しい CPU/メモリーモジュールを取り付ける場合は、どのバージョンの Solaris OS でも、関連する Sun Management Center のすべてのパッチをインストールする必要があります。

### Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェア

Sun StorEdge™ Traffic Manager ソフトウェアは、複数のプラットフォームでのマルチパス I/O フェイルオーバー、フェイルバック、および SAN 環境全体での負荷分散を自動化します。また、このソフトウェアによって、動的なデータベースの構成を行うこともできます。このソフトウェアは、基幹となる SAN 環境での、入出力性能の改善、可用性の向上、および管理時間の節約に役立ちます。

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェアの詳細、機能のインタラクティブツアー、および使用する環境に適した製品の価格の確認および購入については、次の Web サイトを参照してください。

[http://www.sun.com/storage/software/storage\\_mgmt/traffic\\_manager/index.xml](http://www.sun.com/storage/software/storage_mgmt/traffic_manager/index.xml)

---

## 制限事項

この節では、Sun Fire V890 サーバーに関連するバグおよび例外事項について説明します。多くの場合、これらのバグを修正するソフトウェアパッチが提供されています。入手可能なパッチの情報については、SunSolve Online Web サイトにアクセスするか、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、4 ページの「ソフトウェアパッチ」を参照してください。

また、使用しているリリースの Solaris OS のハードウェアマニュアルも確認してください。そのハードウェアマニュアルには、Sun Fire V890 サーバーに影響する可能性がある OS 関連のバグに関する情報が記載されています。

## OpenBoot ファームウェアのマニュアル

ファームウェアの使用方法については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトの「Sun ハードウェア対応 Solaris」から入手できます。

<http://docs.sun.com>

## PCI スロットを使用不可にすると、Solaris の起動中に fcode\_timer のタイムアウトが発生する

カードが取り付けられている PCI スロットに対して asr コマンドの `asr-disable pci-slotn` ( $n$  は 0 ~ 8) を実行して、そのスロットを使用不可にすることはお勧めしません。PCI スロットに取り付けられているカードに障害が発生している場合は、使用不可にするのではなく、システムからそのカードを取り外す必要があります。

`asr-disable pci-slotn` コマンドを使用して、カードに障害があるかないかにかかわらず、カードが取り付けられているスロットを使用不可にすると、インタプリタは一時停止し、カードからの応答を待ちます。カードは使用不可により応答しないため、起動処理が数分間遅延します。

